

長崎の林業

小曽根星堂書

対馬の山々



センダン苗木



センダン材
(福岡・大川家具工業HPより引用)



薪



炭



スプレー・エッセンシャルオイル

木工・工芸品



広葉樹資源の新たな活用方法の模索(対馬)

目次

● 林政だより	緑の募金で緑豊かな郷土づくり	2~3
● 特集記事	雲仙の自然と共にある「山男」の軌跡 島原市 雲仙普賢岳種村研究所 種村 繁守さん	4~5
● 林業普及だより	五島森林組合上五島支所の取組	6
● 地方だより・県央	優良種子の安定供給を目指して～遠目採種穂園の紹介～	7
● 地方だより・対馬	講演会開催「福岡県における広葉樹・早生樹活用の取組」	8
● 林業団体情報	水源林造成事業60年のあらし(1)	9
● センターだより	シカの不嗜好性樹木を利用した森林の更新に向けて	10
● 紹介コーナー	みんなの木材倉庫「ハママツの蔵」	11
● 長崎の山と森	森林浴の森 上山公園(諫早市)	12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。

ながさき森林環境税



2022 No.804

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより



緑の募金って

「緑の募金」は「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、皆様の自発的なご協力により集められる寄付金です。

森林は、きれいな空気、水、地球温暖化の防止など、私たちの豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれる、なくてはならない存在です。しかし、近年は手入れ不足などにより、森林の本来の働きが発揮できない状況が多くみられます。

緑の募金は、森林の整備、地域の植樹活動や、さまざまな緑化活動に活用されています。

緑の募金による支援事業

緑の募金は、例年、春（3月1日～5月31日）と秋（9月1日～10月31日）を活動期間とし、市町と連携しながら、家庭募金や街頭募金、職場募金を行っています。

皆さんにご協力いただいた「緑の募金」は、以下の事業に活用されています。

1 森林整備事業

①県民参加の森林づくり事業

各種団体、自治会、学校等が行う植樹活動や記念植樹にかかる苗木購入代への助成。



島原半島高校生卒業記念植樹（島原市）

②森林整備事業

森林ボランティア団体等が広域的な森林の整備を促進するために実施する「森林整備事業」に対して、その経費を助成。

2 緑化推進事業

①市町緑化等事業

市町が地域の植樹活動、緑化活動を支援するための交付金の交付。



植栽 杉谷自治会（諫早市）

②幼稚園等環境緑化整備事業

園児の緑化意識を芽生えさせるため、幼稚園・保育所等に花苗、緑化樹や園庭の芝生化の経費を助成。



花苗植栽 やまみ山美幼稚園（諫早市）

③緑化推進事業

街頭募金やイベント等での緑化啓発活動記念植樹への花苗・苗木等の配布。

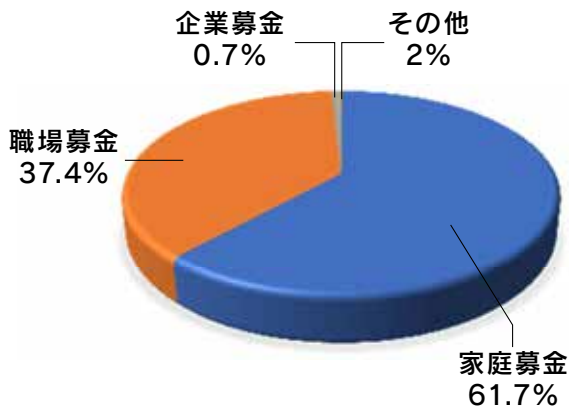
④緑の少年団活動助成事業

次代を担う緑の少年団による公共施設等への花苗の植栽にかかる経費や森林学習、交流活動等における経費を助成。

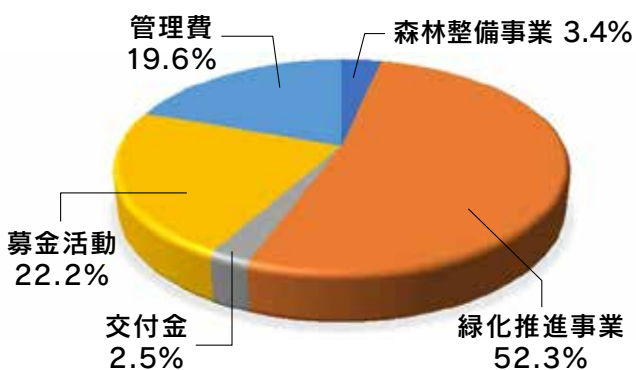


木工工作体験 つつき 筒城緑の少年団（壱岐市）

緑の募金 内訳 (募金総額 29,257千円)
(令和2年7月1日～令和3年6月30日)



緑の募金 用途
(令和2年7月1日～令和3年6月30日)



募金付自動販売機の取組

令和3年度から飲料自動販売機会社のご協力により、飲料水の収益金の一部（約2%）を「緑の募金」として寄付していただく取組が行われています。

【自販機からの「緑の募金」システム】



自動販売機に表示

自動販売機を通じた「緑の募金」への協力にご関心のある方は下記問い合わせ先にご連絡ください。

最後に

緑の募金は、地域での森林整備活動や植樹活動、未来を担う子どもたちの緑化活動に活用されていることをもっと周知していくとともに、事業の利用を働きかけていきます。

(森林活用班)

<問い合わせ先>



公益社団法人
長崎県緑化推進協会
Tel: 095-829-1827

【特集記事】

雲仙の自然と共にある「山男」の軌跡



島原市 雲仙普賢岳種村研究所 種村 繁守さん

たるき 垂木台地より普賢岳を望む 雲仙普賢岳種村研究所 所長 たねむら 種村 繁守さん

およそ198年の時を経て火山活動が活発化した島原半島の雲仙普賢岳の噴煙が確認されたのは、今から30年前の平成2年11月の事でした。その後も火山活動は収まりを見せず、翌年2月には再噴火を起こします。6月には、大規模な火砕流に続き土石流も発生し、人命や家屋に多大な犠牲と被害を与える大惨事となりました。その衝撃的な映像は今も記憶に新しい事と思います。そんな普賢岳の麓に住み、日々の山歩きの中で山の様子を間近に見続け、地域住民の安全を守るため少しの変化も見逃さず伝え続けた方がいます。雲仙普賢岳種村研究所の所長である種村繁守さんです。今回は長きに渡り、山と共に生きて来られた種村さんに案内して頂きながら貴重なお話を伺いました。

山の恵みと共にある暮らし

「雲仙の山々は自分の裏山みたいな存在だよ。」と話す種村さんは、自他ともに認める根っからの「山男」。幼い頃は時間を見つけては父と山で過ごし、自然の恵みと共に

生きて来ました。そのひとつが「小鳥」です。今ではなかなか想像が及びませんが、当時は野鳥を捕らえ販売していたそう。「福岡や熊本の専門業者がわざわざ買い付けに来ていた。とても人気でよく売っていたよ。」と笑って話すその（上）野鳥を捕る仕掛けを説明する種村さん
お顔はおそらく幼少期と相違ない、まるで少年の様でした。



注) 現在、野鳥の捕獲は法律により禁止されています。

小学4年生頃には父秘伝の仕掛けで野鳥を捕らえ、自宅で1週間ほど餌付けした後に販売し家計を助けていたという種村さん。オオルりにコマドリ、ノジコなど様々な野鳥と触れ合ってきました。渡鳥に関しては飛来時期だけでなく鳴き始めの時間までもが頭にインプットされ、縄張り争いの習性を持つ野鳥にはカセットテープに録音した鳴き声を流して誘き寄せさせる仕掛けを、ニワト

コの実が好物の野鳥にはその実を枝に結んだお手製トリモチの仕掛けなど、自然の中で培った知恵と経験を活かした技は豊かな山の恵みを傷つけない工夫に満ちたものでした。山を案内していただいた時間は終始楽しく驚きに溢れ、「必要なものを必要な分だけ山からいただく」山男が昔から大切に守ってきた信念を窺い知ることができました。

山男ならではの「大発見」

幼少期から歩き慣れた山でも、ある日突然思いがけない出会いに恵まれるそう。そのひとつが普賢岳八合目辺りにある「鳩穴」と呼ばれる氷室。遠い昔、島原藩のお殿様が夏場でも貴重な氷を貯蔵出来るようにと作ったであろう室を発見しました。何十年も歩き慣れた道のすぐ傍で発見した時は喜びに震えたそう。またある時は、観音様の顔が浮かび上がった巨岩を発見しました。山には女の神様が住むという言い伝えを思い出し、後世に引き継ぐようにと山の神様が見せてくれたものと感謝したそうです。

お世話になった地域の方へ

山を愛する種村さんの転機となったのは、やはり雲仙普賢岳の噴火でした。慣れ親しんだ山からは木々の緑が消え、小鳥の囀りも聞こえない砂漠のような状態だったといえます。その光景を目の当たりにした種村さんの悲しみは想像に堪えません。心を痛めた種村さんは噴石の散らばる山の各所にドングリの種を植えました。昔のように美しい緑がたとえ1本でも蘇って欲しいという願いからでした。また、土石流で流された千本木の「石どい」復興と公園整備にも尽力され、今では美味しい湧水を求め遠方から汲みに来る人もいます。今までお世話になった方々、そして山への恩返しとして平成5年「種村研究所」を設立。普賢岳に緑を増やす活動や自然観察、登山活

動の手伝いの他、植樹を通し子どもたちに山の大切さを語り継ぐ活動を行っています。



(左)砂漠化した山に植えられたドングリの木
(右)埋もれた石どいで再現された千本木湧水公園

山は身体を整える天然の薬箱

秋には珍しい「イワタバコ」採りに秘密の場所まで行くという種村さんは、火山で自生する希少な薬草にも長けています。煎じた「マタタビ」の実は漢方としての薬効も期待ができるそう。自然のもので体を整えるのが何よりだと話します。山の恵みをいただき、少しずつお裾分けするのが楽しみだそうで、原木椎茸や平茸、とりわけ日本ミツバチの百花蜜は力強い自然の味に驚かされました。自らの名前の通り「種を蒔き育て守る」活動に運命を感じるという種村さん。幼い頃、夢中で歩き回り、そこかしこに思い出が詰まった故郷でもある山々の原風景を、美しい姿のまま後世に遺すべく今日も山の観察活動を続けています。



(左/中)日本ミツバチの巣箱と採れたてのハチミツ
(右)珍しいイワタバコの葉

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

五島森林組合上五島支所の取組



立木の曲がりの確認

五島森林組合上五島支所では現在15名が現場で働いています。作業班員の平均年齢は42.2歳で、県平均の49.2歳を大きく下回っています。林業就業年数は2～13年ですが、県内でも若く活気のあるチーム構成です。

支所では月に1度、作業班員のレベルアップを目的として自主的に研修を行っています。5月に作業班員同士や施業プランナーとの間で木材評価を確認するための採材研修と、リスクアセスメント講習を行いました。

採材研修

作業班員だけで企画立案したこの研修は実際に施業中の林業公社が所有している森林で行われました。

まず、採材研修の提案者を中心に2班に分かれ、立木の状態で曲がりを確認します。それを各自メモした後実際に伐倒、枝払いをし、全幹にして矢高や曲がりの状況を再度確認します。立木では一方向からしか見えないため、作業道に置いてみたらS字に曲がっていたり、厳しめに見ていた曲がりや実際の矢高はそれほどではなかったりと曲がりの判断が難しい場合があります。みんなで意見を出

し合いながら時間をかけて材の評価をすることで、班員間の判断の差が整理できました。

引き続き、施業プランナーも交えて、どのような採材をすれば最も材の価値を上げることができるかということも検討されました。一人で作業している時には見逃してしまう疑問も、時間をかけて全員で意見交換することで解消できたようです。



矢高の測定

リスクアセスメント講習

その後、事務所に戻り、リスクアセスメント講習とミーティングを行いました。

「足元の安全対策」というテーマで、事故を防ぐためにはどうすべきか、個人の注意力や意識に頼らず事故を起こさない仕組みを作るにはどうしたらよいかについて、活発な意見交換が行われました。足元が踏ん張りにくくなる等の意見もありましたが、安全性を最優先し、守るべきルールの一つとして、チェーンソー使用時には、プロテクトブーツやプロテクターを必ず着用することを決めました。



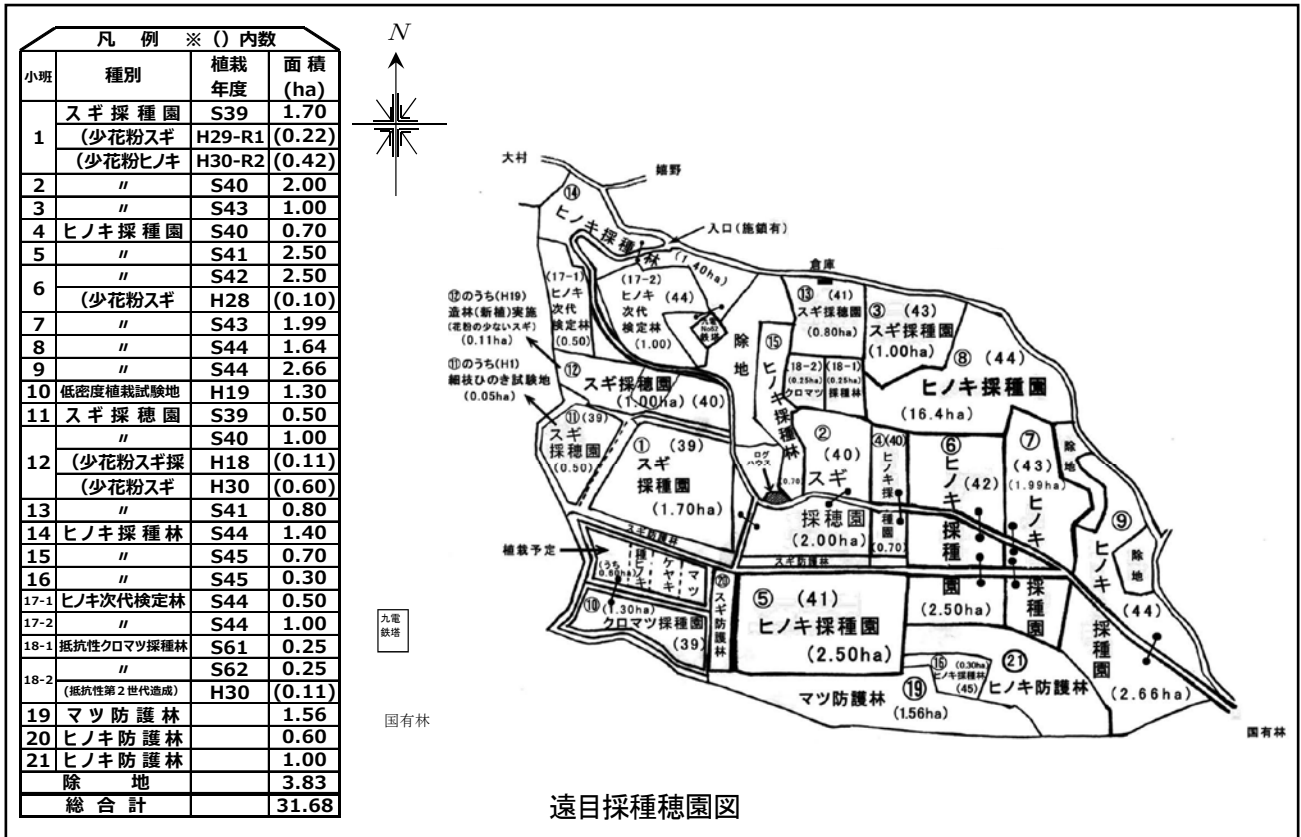
意見交換

県としても、こうした研修を積み重ねることで、作業班員の更なるレベルアップを図るよう引き続き支援していきます。

(五島振興局 林務課)

地方だより

優良種子の安定供給を目指して
～遠目採種穂園の紹介～



優良種穂の安定供給を目指して

遠目採種穂園は、東彼杵郡東彼杵町遠目郷にあり、ヒノキ・スギの苗木の供給を目的として県央振興局が母樹の防除や剪定などの管理を実施しています。

過去には他県に種子を供給する量の種子が採取されていましたが、近年は母樹の老齢化や日照等の環境悪化などにより、生産力低下が課題となっていました。

そのため、平成28年度から令和2年度にかけて生産力増加を目的に改良造成を行いました。県においても再造林を重要課題として取り組んでおり、その基盤となる種穂の生産は良い苗木確保に欠かせないものです。

今年の6月時点でミニチュア採種園で育成しているスギには球果が着いており、成長が早いなど優位な特性を持ち育林コスト低減が期待されるエリートツリー種子が生産される見込みです。

(県央振興局 林業課)



ミニチュア採種園のスギの球果



改良造成された採種穂園

地方だより

講演会開催「福岡県における広葉樹・早生樹活用の取組」



講演会の様子

開催の経緯

7月21日(木)対馬市交流センターにおいて、「福岡県における広葉樹・早生樹活用の取組」の講演会が開催されました。令和3年12月対馬林業懇話会が、福岡・大川家具工業会へ視察研修に伺ったご縁から、今回は工業会から講師として来島いただいて講演の運びとなり、林業事業体を含め島内から26名の参加がありました。



視察研修の様子

講師の方々

講師には、協同組合 福岡・大川家具工業会 地域材開発部会から、(株)ウエキ産業 植木正明会長、手作り家具工房日本の匠(株) 森田社長、モリタインテリア工業(株) 森田副社長にお越しいただきました。



(左)植木会長 (中) 森田社長 (右) 森田副社長

講演会の内容

はじめに対馬振興局林業課から、対馬の森林・林業、広葉樹資源の豊富さ、利用状況等につ

いて情報提供しました。そして講演会では、大川家具の発展の歴史から、現在の事業内容、供給体制までご説明いただきました。協同組合の家具メーカーの多くは、現在アメリカ広葉樹といわれる外材を利用されていますが、その中でも地域材開発部会では、今後国産材へ大幅にシフトしていく計画です。その供給体制強化のため、全国各地で広葉樹活用の普及啓発に取り組まれています。特に早生樹であるセンダンについては、成長の早さやその強度、加工のしやすさ、材の美しさから、特に力を入れ、植樹活動も行われています。

参加者の方々は、講演や意見交換を通して、広葉樹の価値を再認識すると共に、センダンの材としての利用の可能性を知る貴重な機会となりました。



家具一例(協同組合 福岡・大川家具工業会HPより)

最後に

講師の方々は、国産広葉樹材の安定供給へ向け、普及活動や講演会等を各地で行われています。今回初めて対馬に来島された方もおられ、島内の資源量に驚かれると同時に「ぜひセンダンを！」と力説いただきました。

今回の講演会が、川上から川下の新たなマッチングの一助となり、今後対馬の豊かな森林資源が利活用され、林業の発展に寄与することを期待します。

(対馬振興局 林業課)

林業団体情報

水源林造成事業60年のあらし(1)

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター
 (旧森林開発公団)
 九州整備局 佐賀水源林整備事務所



佐世保市下の原第1団地 (契約番号1315号)

はじめに

森林開発公団は、未開発の奥地民有林を開発するため、これら地域に急速かつ計画的に林道網を整備することを目的として、昭和31年に森林開発公団法に基づき設立されました。

その後、昭和36年に森林開発公団法の一部改正により、水源をかん養するため急速かつ計画的に森林造成を行うことを目的として水源林造成事業がスタートし、県内でも西海市等で分収造林契約に基づく造林事業が開始されました。

表-1 森林整備センター組織改編等のあゆみ

森林開発公団	
昭和31年	「森林開発公団」設立
昭和36年	水源林造成事業【県内でも旧大瀬戸町等で造林始まる】 5月～福岡支所〔現九州整備局〕開設
昭和40年	7月～佐賀出張所〔現佐賀水源林整備事務所〕開設
昭和47年	4月～長崎駐在開設
緑資源公団	
平成11年 10月1日	森林開発公団から緑資源公団へ名称変更
独立行政法人 緑資源機構	
平成15年 10月1日	独立行政法人 緑資源機構へ権利義務の承継
独立行政法人 森林総合研究所 森林農地整備センター	
平成20年 4月1日	独立行政法人 森林総合研究所 森林農地整備センターへ権利義務の承継
国立研究開発法人 森林総合研究所 森林整備センター	
平成27年 4月1日	国立研究開発法人 森林総合研究所 森林整備センターへ名称変更
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター	
平成29年 4月1日	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センターへ名称変更し、現在に至る

なお、旧森林開発公団は表-1のとおり幾度かの組織改編、名称変更を経て、現在の森林整備センターに至っています。

県内での造林実績

表-2 長崎県内における契約状況【R4年3月末現在】

市 町	契約件数 (団地)	契約面積 (ha)	植栽面積 (ha)	契約年度
西海市	62 (2者) 33 (3者) 29	1,034	964	S36～
五島市	26 (2者) 21 (3者) 5	916	782	S36～
諫早市	21 (2者) 15 (3者) 6	226	203	S43～
長崎市	27 (2者) 2 (3者) 25	333	262	S47～
波佐見町	3 (2者) 1 (3者) 2	61	38	S47～
佐世保市	3 (2者) 0 (3者) 3	63	51	S48～
雲仙市	6 (2者) 0 (3者) 6	37	34	H12～
合計	148 (2者) 72 (3者) 76	2,670	2,335	

長崎県内における契約箇所数、契約面積等は表-2のとおりで、県内民有林面積の1.2%、人工林面積の2.6%を占めています。

植林から約60年が経過し、初期に契約した生育良好な一部の契約地では、平成27年度から主伐（更新伐等）が行われています。

(来月号に続く)

(佐賀水源林整備事務所 長崎駐在)
 県央振興局 林業課内 (TEL 0957-22-7070)

センターだより

ふしこうせい
シカの不嗜好性樹木を利用した森林の更新に向けて

はじめに

シカの生息密度が高い地域では、ヒノキやスギの植栽木が食害を受けます(写真1)。

また、シイタケ原木やチップ等の供給のため広葉樹を伐採した場合、その伐採跡地の萌芽枝が食害を受けます。

食害を受けると、植生が回復せず森林の更新は進みません。対策として、植栽地・伐採跡地の周囲への防鹿ネットの設置や単木保護資材の設置が行われています。しかし、これらの取組は森林所有者等の経費・労務の負担が大きいという問題があります。

ふしこうせいじゅもく
不嗜好性樹木とは？

不嗜好性樹木とは、次のような特徴がある樹木のことで。

- ・「不快な味や匂い」を有する樹木
シキミ、シロダモ、ヤブツバキ、ケヤキ、クスノキ、カゴノキなど
- ・「トゲや堅く鋭い針葉」を有する樹木
タラノキ、カンコノキ、マツ類など

森林の更新に不嗜好性樹木を利用できれば、経費・労務負担を軽減できることが期待されます。しかし、シカの不嗜好性は個々の地域での生息密度、採餌環境により異なるとの報告があり、地域別の検証が必要です。

シカが多く生息する対馬でも食害が問題となっていますが、不嗜好性樹木について検証されていません。そこで、農林技術開発センターと対馬振興局林業課が連携し、不嗜好性樹木の植栽試験を行いましたのでその状況をご紹介します。



写真1 植栽地に侵入したシカ

植栽1年後の状況について

対馬市の4か所に6樹種を植栽しました(表1)。その結果、植栽した6樹種すべてが食害を受けましたが、樹種により食害の程度は異なりました。食害による影響が最も少ないのはコウヨウザンであり、次いでシロダモ、シキミとなりました。

なお、他県ではコウヨウザンが全滅したとの報告もありますので、今後も経過観察をしていきます。また、不嗜好性の地域差を検証するため、令和4年度に新たに試験地4か所を設置します。さらに、新たな不嗜好性樹木を探索するため、表1以外の樹種の植栽試験も追加で行うこととしています。

(農林技術開発センター)

表1 植栽樹種と1年後の食害状況

(単位：本)

樹種	植栽本数	食害無	食害有 生育に 影響無	食害有 生育に 影響有	食害等 による枯死 等	落葉に より影 響不明
コウヨウザン	10	6(60%)	4(40%)			6樹種 すべて 食害あり
シロダモ	20	↑	6(30%)	8(40%)	6(30%)	
シキミ	20	唯一	5(25%)	4(20%)	11(55%)	
ノグルミ	20	食害なし	3(15%)	2(10%)	11(55%)	
ヤブツバキ	20		1(5%)	10(50%)	9(45%)	
スダジイ	21			2(10%)	19(90%)	

(令和3年4月植栽、令和4年1月食害状況確認)

紹介コーナー

みんなの木材倉庫「ハママツの蔵」



ハママツの蔵 店内の様子

今年6月、南島原市深江町にワクワクが詰まった秘密基地のような素敵な蔵が誕生しました。「みんなの木材倉庫ハママツの蔵」です。諫早市に本社を構える(株)浜松建設が手がけたもので、人気の「風びより」の一角に作られました。なんとこちらの蔵、驚くべきは無人販売所であること。もっと気軽に木材に触れる機会をと考えられた空間には、スウェーデントーチや3D加工機で制作された木のプラモデルのような「つみぐみキッズチェア」などが並び、店内をゆっくりと回ることが出来ます。購入代金は入口すぐの可愛い木箱に入れるシステム。

取材中も家族で訪れていた小さな男の子が積み木を購入し、楽しそうに100円玉を入れる姿が見られました。良質な建築端材を入手出来るとあって、訪れるお客さんも実に様々。端材の段ボール詰め放題コーナーは県産材も含め、大きさや形が違う色々な樹種の材が入ったコンテナから、好きなものを好きなだけ手に取り箱に詰めることが出来ます。楽しいアイデアが浮かびそうな癒しの空間を、ぜひ一度訪れてみませんか。



左/中: 県内に1台の3D加工機を用いたキッズチェア
右: お手軽に様々な端材が入手出来る詰め放題

みんなの木材倉庫「ハママツの蔵」

住所: 長崎県南島原市深江町丁 4621-1
Tel: 0957-72-2660
Instagram: hamamatsunokura8002

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和4年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	18,400	普通	少ない	少ない
	16~18	小曲り	16,500	普通	少ない	少ない
	20~22	直	21,800	普通	普通	普通
	20~22	小曲り	20,300	普通	普通	普通
	24~28	直・小曲り	21,000 ~19,000	少ない	普通	普通

【スギ】

令和4年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	15,500	少ない	多い	多い
	16~22	小曲り	13,500	少ない	多い	多い
	24~28	直	15,500	少ない	多い	多い
	24~28	小曲り	13,500	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

森林浴の森 上山公園（諫早市）



沢山の樹種からなる森林

じょうやまこうえん

上山公園は、代々諫早家に維持・管理されてきた丘陵地です。そのため祠や三重塔などの歴史的遺構が残っています。その後、市が諫早家から丘陵地を取得し、昭和33年から公園整備を進めています。現在では、諫早公園として市民の憩いの場となり、一万本のつつじが咲く季節には多くの市民が訪れます。

敷地面積は120.3haと広大です。「森林浴の森 日本100選」としても選定を受けており、市の中心部でこれだけ広い森林のある公園は、全国的にも稀であると思われます。

林内には幅員3m程度とゆっくり歩くことのできる遊歩道が整備されており、隅々まで散策することができます。実際に歩いてみると、



森林浴の森日本100選の標柱（左）と愛宕山の祠（右）

車の騒音を遠くに聞きながら、自然豊かな森林空間の中に身を置くことができます。

上山公園の特徴は、元からあった森林の保存状態が良いことです。駐車場を起点に愛宕山への入口である肥前鳥居をくぐり、祠に至る階段を上ります。そこからお城型の展望台まで歩くこととなりますが、途中に多くの樹名板が取り付けられていました。樹木を観察しながら名前を覚えていくにはうってつけの遊歩道であると思われます。

これらの樹木の中で、タマミズキ（玉水木）は希少であると思われます。この木はモチノキ科の落葉高木で、雄株と雌株があります。

雌株は冬になると赤い実をつけて目立ちます。さらに愛宕山一帯は、自然が良く保たれ、高木、亜高木、低木及び草本層と4階建てのアパートのように階層構造をなし、市の中心部で森の仕組みの典型を見ることができ、貴重な場所となっています。

公園は、昭和26年（1951）に「諫早市城山暖地性樹叢」（国指定天然記念物）にも指定されました。ヒゼンマユミはこの地で発見され、原標本産地になっています。

頂上にあるお城型展望台から見下ろす風景は見通しがよく、有明海や大村湾までも眺めることができます。ぜひご家族連れでおいでになりませんか。

（NPO法人地域循環研究所）

長崎の林業 9月号 第804号
 編集・発行 長崎県林政課
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
 電話：095-895-2988
 ファクシミリ：095-895-2596
 メールアドレス：
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp

お詫びと訂正

長崎の林業8月号P12「長崎の山と森」の文中で、諫早市長 大久保 潔重 様の読み仮名をおおくぼきよしげ様と誤って記載しておりました。正しくは、おおくぼ ゆきしげ様です。訂正してお詫び申し上げます。